

もんじょ紹介 No.30

2024「須坂に残る戦時資料」展

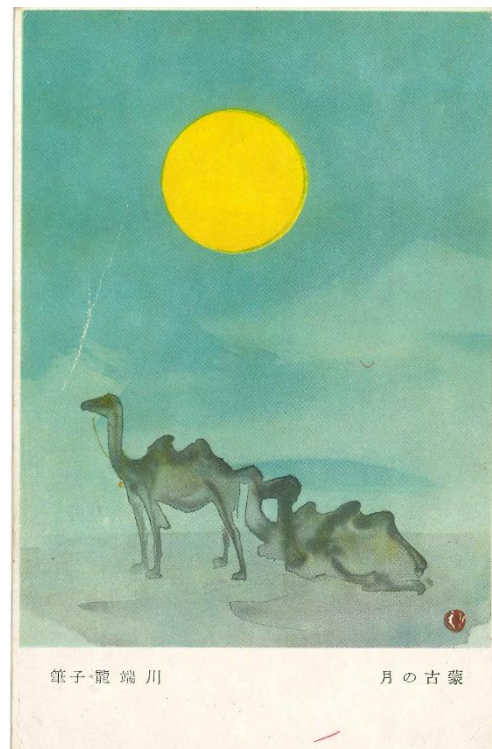
ポスター・絵葉書・写真類と著名画家たち



藤田嗣治 「九月二十日は航空日 空だ男のゆくところ」(情報局)



藤田嗣治 「聖戦四年七月七日」(陸軍省)



川端龍子 「蒙古の月」(陸軍恤兵部)

2024「須坂に残る戦時資料」展

ポスター・絵葉書・写真類と著名画家たち

4 回目の「須坂に残る戦時資料」展を行います。

今回は、国策宣伝や戦費調達のためにポスター・絵葉書などの原画を描いた画家や図案家の
中から著名な方々の作品を中心に展示紹介します。また、12 種類の記念（画家原画・写真）
絵葉書と写真「米国太平洋艦隊全滅 ー歴史的記録写真ー」も合わせて紹介します。

今回も、牧幸一郎氏から寄贈いただいた資料の中から特に注目すべき資料を選び出しました。
著名画家の中には、横山大観・竹内栖鳳（当時の日本画壇双璧）などの東西画壇を代表する画家
たちの名が見られます。さらに、プロパガンダポスターの原画作製で名を挙げた図案家の作品も
紹介します。国策とはいえ、これほど多くの画家・図案家が協力したということは驚異です。

なお、当館が収蔵（寄託含む）する戦時資料は大量であり、とても短時日では紹介しきれません。
今後もテーマに沿って選定した戦時資料を展示紹介していく予定です。

〈画 家〉 横山大観 川端龍子 竹内栖鳳 藤田嗣治 宮本三郎 中村研一
 小室翠雲 岩田専太郎 向井潤吉 福田豊四郎 松添 健 ほか

〈図案家〉 岸信男 土屋華紅 阪本政雄 杉本金吾

〈絵葉書〉 横山大観先生紀元二千六百年奉祝記念展覧会 陸軍恤兵記念
 大東亜戦争記念報国 満洲国皇帝陛下御来訪記念 関東防空大演習記念
 名古屋汎太平洋平和博覧会 報国艦上戦闘機・愛国戦闘機 陸軍特別大演習記念
 聖戦第二周年「建設東亜新秩序」 よく当る弾丸切手「頑張れ！敵も必死だ」
 紀元二千六百年記念「日本万国博覧会」

会期：2024 年 7 月 19 日（金）～9 月 8 日（日）

会期中は土・日曜、祝日も開館

会場：須坂市文書館（旧上高井郡役所内）

時間：午前 9 時～午後 5 時

I ポスター・絵葉書と著名画家

1 横山大観（よこやまたいかん）1868.9.18～1958.2.26 水戸生まれ

1889 年東京美術学校日本画科第 1 回生として入学、岡倉天心・橋本雅邦の指導を受ける。1897 年日本絵画協会第 2 回展に『無我』を出品し銅牌を受賞。のち日本美術院の創立に参加、1904 年からは欧米を旅行し、帰国後は岡倉天心らと茨城県の五浦に転居して制作を行う。1907 年から文部省美術展覧会の審査員として活躍、多くの有名作品を残す。その後、帝室技芸員・帝国美術院会員となり、1937 年第 1 回文化勲章を受章。初期には「朦朧体」と呼ばれる無線描法を工夫、水墨画を中心とする東洋的理想主義の伝統を前面に押し出した。戦時期には、陸海軍の軍用飛行機を献納する目的で新作を揮毫し売上金を寄付するなど、時局に積極的に協力した。

国民精神総動員「天壤無窮」（帝国政府）



揮毫 近衛文磨

横山大観は、この「天壤無窮」のほかにもう 1 点「八紘一宇」を文部省に提出している。竹内栖鳳の「雄飛報国之秋」と合わせて、3 枚が一组の絵葉書となって販売された（一组 3 銭）。

また、大観の「天壤無窮」と栖鳳の「雄飛報国之秋」の 2 点は大塚工芸社によって複製され、これらの工芸画が主要百貨店において 1 枚 12 円から 32 円で販売もされた。しかし、本人らは絵葉書や複製工芸画になるとは予期していなかったようだ。

大観の紀元二千六百年奉祝記念展覧会絵葉書「山」・「海」も販売された。

横山大観先生 紀元二千六百年奉祝記念展覧会絵葉書「山」



横山大観先生 紀元二千六百年奉祝記念展覧会絵葉書「海」



2 川端龍子（かわばたりゅうし）

1885.6.6～1966.4.1

和歌山生まれ

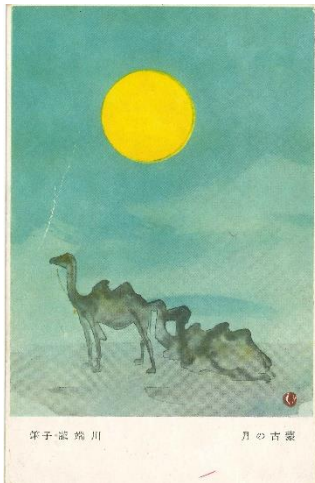
1895 年和歌山から上京し、白馬会洋画研究所および太平洋画会研究所に学ぶ。1907 年東京内国博覧会に『秋色』を、第 1 回文展に『隣の人』を出品。1913 年渡米、ボストン美術館で日本絵画開拓の意義を自覚、帰国後は日本画に転向し、1917 年に日本美術院会員になるも脱退し翌年青竜社を創立した。会場芸術論を唱え、伝統的技法や奇抜な内容と豪放な筆致による大作で画壇をにぎわした。帝国美術院会員などには参加せず、在野で画業に専念した。1959 年文化勲章を受章。

岡信孝の祖父。

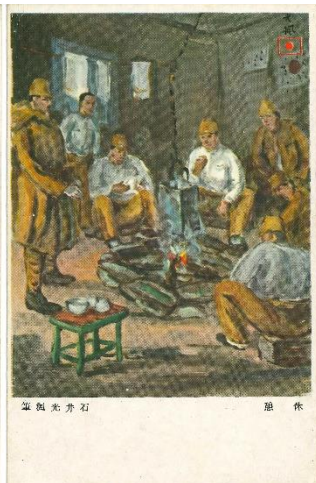


「護れ興亜の兵の家」（軍事保護院）

〈陸軍恤兵絵葉書〉



川端龍子



石井光楓

等々力巳吉

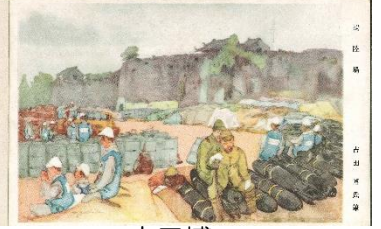
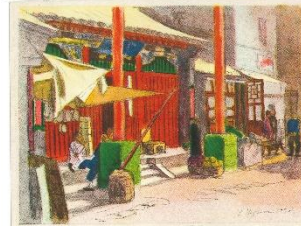


碓伊之助

瀬野覚造



吉田博



3 竹内栖鳳（たけうちせいほう）
1864.11.22～1942.8.23
京都生まれ

1881 年幸野棹嶺に師事し四条派を学ぶ。1900 年パリ万博展で『雪中燥雀』が銀牌をうけ、同博視察のため5ヶ月間ヨーロッパを巡歴。帰国後は栖鳳に号を改めた。

四条派の筆法に近代化の作風を加味し、軽妙斬新な独自の写生画風を開いた。のち帝室技芸員、帝国美術院会員、帝国芸術会員。1924 年フランスのレジオン・ドヌール勲章、1931 年ハンガリー最高美術賞、1937 年第1回文化勲章を受章した。

ポスター用原画の作品としては、国民精神総動員運動の際に制作された『国民精神総動員 一雄飛報国之秋一』の1点のみである。終始官展にとどまり、横山大観と画壇の双璧をなした。



国民精神総動員「雄飛報国之秋」（帝国政府）

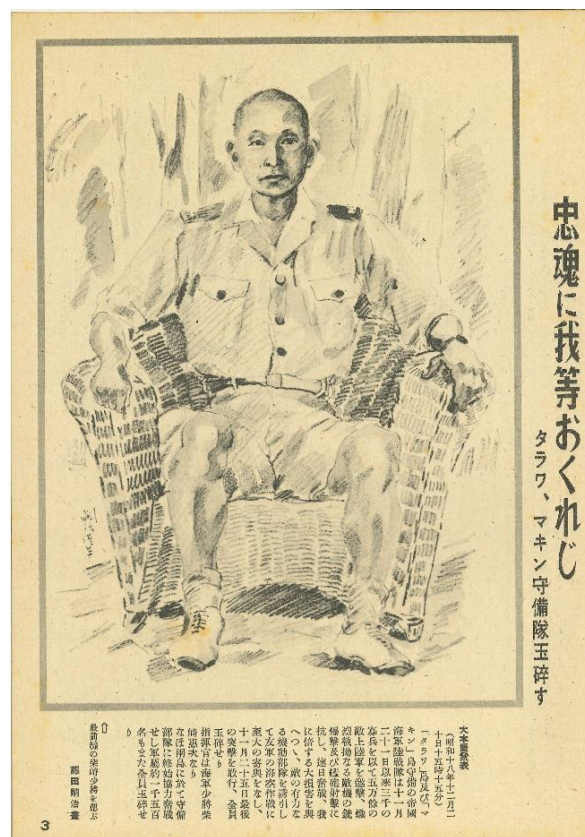
4 藤田嗣治（ふじたつぐはる）1886.11.27～1968.1.2 東京生まれ

軍医總監藤田嗣章の二男。1905 年東京美術学校に入学し、黒田清輝・和田英作に学ぶ。1913 年渡仏。P. ピカソや A. モジリアーニの知遇をえてエコール・ド・パリの一員として認められる。1919 年サロン・ドートンヌに出品した作品 6 点が高い評価を得た。国内でも 1924 年帝展審査員、1934 年二科会会員、1941 年帝国芸術院会員になる。その間、帰国と渡仏を繰り返す。1940 年戦争のために帰国、アジア太平洋戦争時は多くの戦争記録画を残した。1949 年日本画壇と決別し渡仏。1955 年フランス国籍を得、1959 年カトリックの洗礼を受けてレオナルド・フジタを名乗った。

『写真週報』第 175 号の「支那事変四周年第一特輯」には、「この絵は藤田嗣治画伯が度々の従軍やノモンハン戦跡の視察などによって鍛えられた画魂を集中して、支那事変四周年記念日のため、特に彩管をふるったものです」との説明文がある。



支那事変四周年第一特輯
『写真週報』第 175 号



タラワ・マキン守備隊玉砕す 柴崎少将
『写真週報』第 304 号

5 宮本三郎（みやもとさぶろう）1905～1974 石川県生まれ

藤島武二・安井曾太郎らに師事。1938 年渡欧。帰国後戦争記録画に力量を発揮した。戦後、二紀会を設立した。

軍隊に同行して戦場におもむき、戦況を報告するジャーナリストのことを従軍記者といいカメラマンや画家なども含まれる。なかでも宮本三郎は代表的な従軍画家である。アジア太平洋戦争では従軍記者からも計 251 人の犠牲者が出た。



第三十七回陸軍記念日三月十日（陸軍省）



大東亜戦争二周年「死闘」
『写真週報』第300号



大東亜戦争記念報国絵葉書
「シンガポール英軍の降伏」

6 中村研一（なかむらけんいち）
1859～1967
福岡県生まれ

1920 年東京美術学校西洋画科卒業。1923 年に渡仏し 1928 年まで同地に滞在した。1938 年に結成された大日本陸軍従軍画家協会の設立会員で、以降は従軍画家として中国や南方に出かけた。1942 年第 5 回文展で『安南を憶う』で野間美術奨励賞を、同年第 1 回大東亜戦争美術展では『コタ・バル』で朝日文化賞を受賞した。



「護れ傷兵」（陸軍保護院）

7 小室翠雲（こむろすいうん）

1874.8.31～1945.3.30

栃木県生まれ

16 歳の時から田崎草雲に師事し南画を学ぶ。1899 年上京し、日本美術協会展に出品。しばしば受賞し、日本画会および南画会の幹事として名声を挙げる。1908 年から文展に出品して 6 回連続受賞。以後、1924 年帝室美術院会員、1944 年帝室技芸員。1941 年には大東南宗院を設立し、雑誌『南画鑑賞』を刊行し新しい南画の振興と普及に尽くした。



「湧き立つ感謝燃えたつ援護」（軍事保護院）

8 岩田専太郎（いわたせんたろう）

1901.6.8～1974.2.19

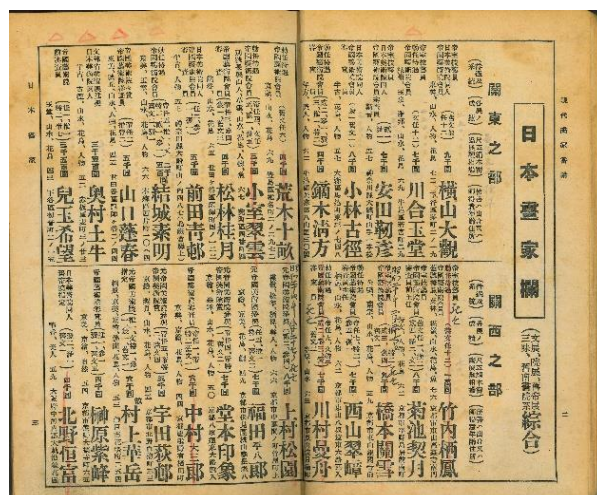
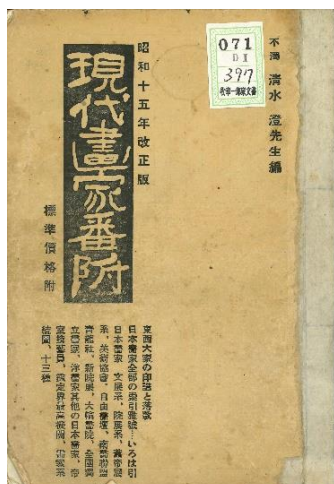
東京生まれ

小学生の頃京都に移り、小学校卒業後は友禅染の図案家・印刷図案家のもとで修業し、18歳の時上京。21歳の時講談雑誌に初めて挿絵を描く。関東大震災後は再び関西に戻り、大阪毎日新聞連載小説の『日輪』の挿絵で注目される。アジア太平洋戦争後は、『オール読み物』の表紙に艶やかな女性を描き高い評価を得た。



サンデー毎日「支那事変皇軍武勇伝」

〈現代画家番附〉



Ⅱ 図案家

9 岸信男（きしのぶお） ？ ～1947

早稲田大学理工学部建築学科卒業。大学卒業後は西村建築事務所に就職したものの、長兄・次兄とともに岸スリーブラザーズ造形美術研究所という図案社を起こした。戦時期は、ポスター用原画の懸賞募集にしばしば応募、入選を果たし、関係機関からはポスター用原画を直接依頼されることが多かった。1944 年、日本宣伝技術家協会に嘱託として入所した。



報国債券「稲藁を抱える農婦」
『写真週報』第132号

10 土屋華紅（つちやかこう）

東京港区で土屋画房という図案社を自営していた。戦時期に開催されたポスター用原画の懸賞募集にしばしば応募、入選を果たした。

11 阪本政雄（さかもとまさお）

実兄の阪本暁英とともに、大阪で巧美社という図案社を自営していた。戦時期に開催されたポスター用原画の懸賞にしばしば応募、入選を果たした。



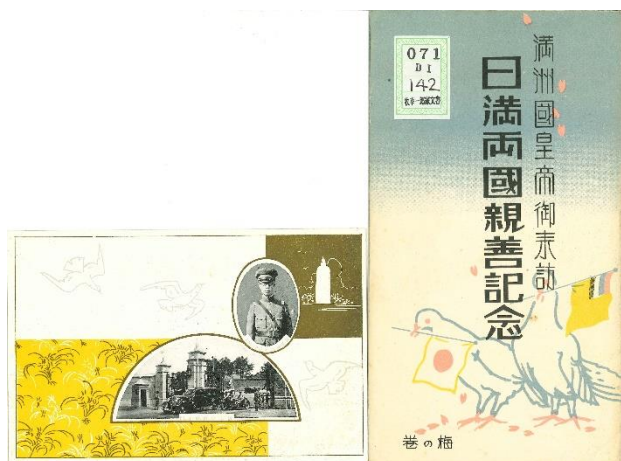
貯蓄実践運動「一億総動員」



銃後奉公強化運動「護れ興亜の兵の家」

Ⅲ 記念絵葉書

1 満洲国皇帝陛下御来訪記念



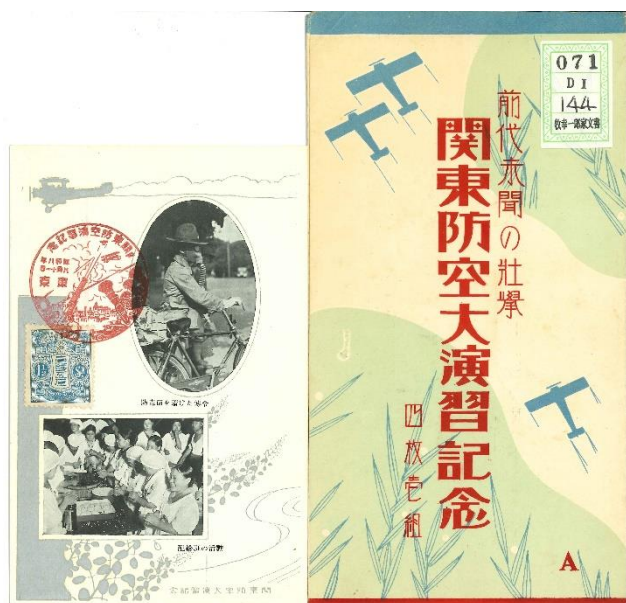
満洲国皇帝溥儀（康德帝）は、2回来日している。

1 回目＝昭和 10 年（1935）4 月 6 日

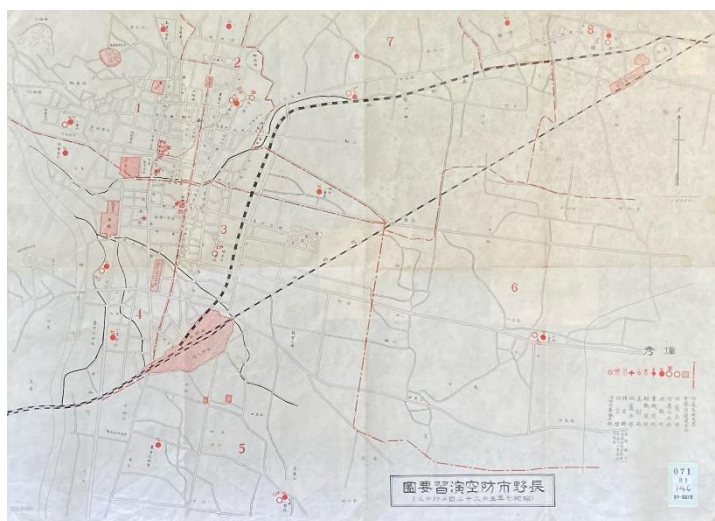
2 回目＝昭和 15 年（1940）6 月 26 日

いずれも、昭和天皇自らが東京駅頭に出迎えている。

2 関東防空大演習記念



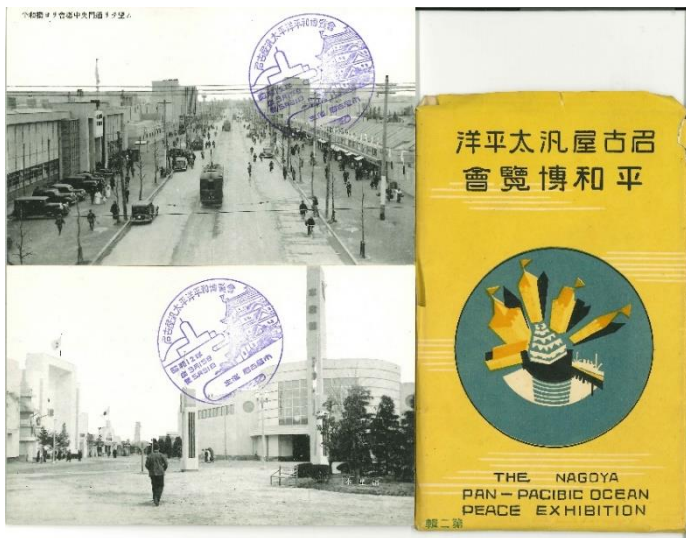
長野市防空演習要図（昭和 7 年 5 月 22 日）



3 名古屋汎太平洋平和博覧会



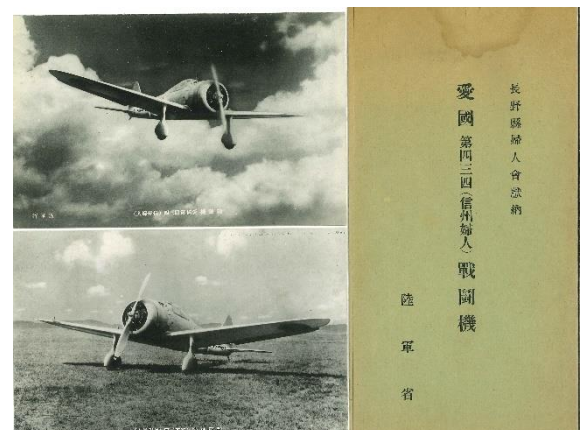
世界無比超冒険空中大演技
(名古屋汎太平洋平和博覧会)



4 報国（翼賛須坂号）艦上戦闘機（海軍省）



愛国（信州婦人）戦闘機（陸軍省）



5 陸軍特別大演習記念（昭和 9 年 11 月）
（東京逓信局）



6 聖戦第二周年「建設東亜新秩序」
（陸軍省）

向井潤吉

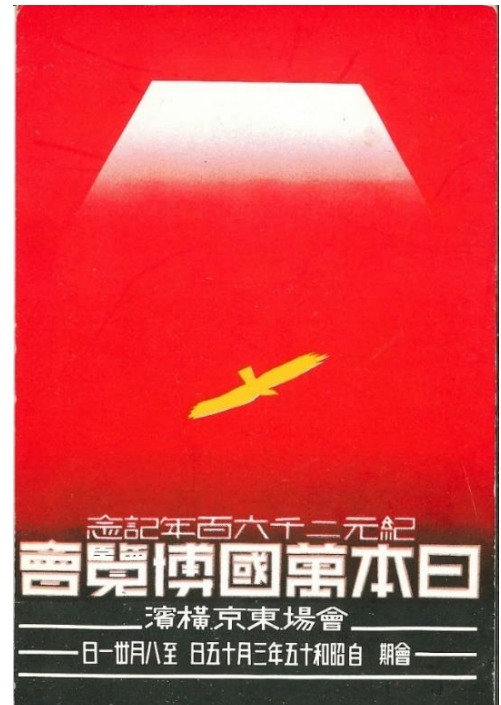


福田豊四郎

7 「頑張れ！敵も必死だ」（貯金局）

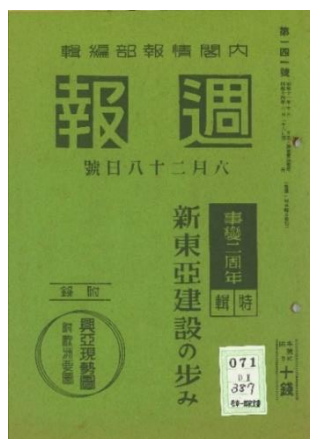


8 紀元二千六百年記念「日本万国博覧会」

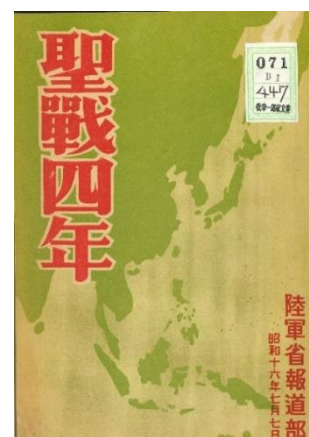


〈参考〉

『週報』（昭和 14 年 6 月 28 日）



『聖戦四年』（昭和 16 年 7 月 7 日）



IV 写真「米国太平洋艦隊全滅 一歴史的記録写真一」

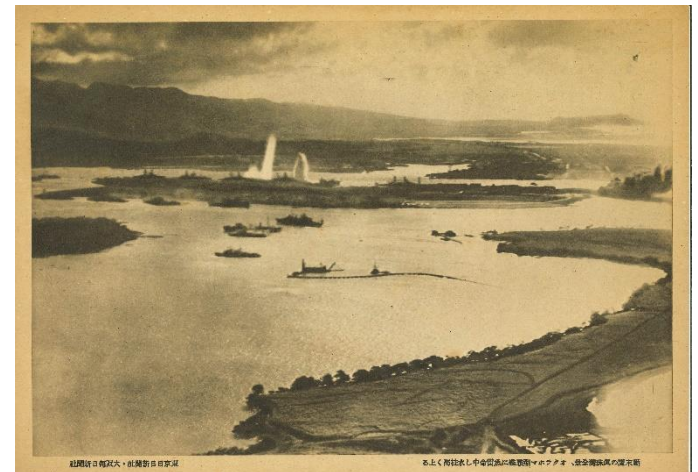
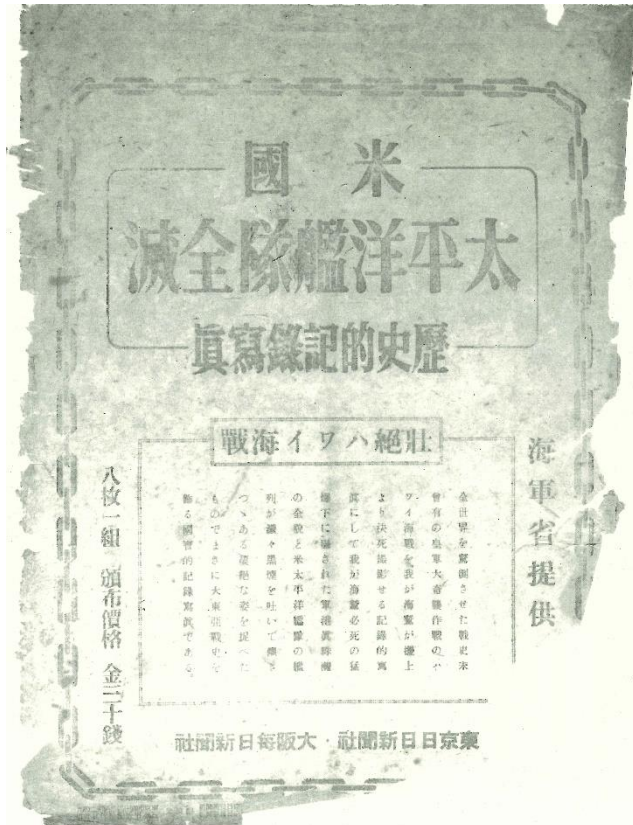
昭和 16 年（1941）12 月 8 日

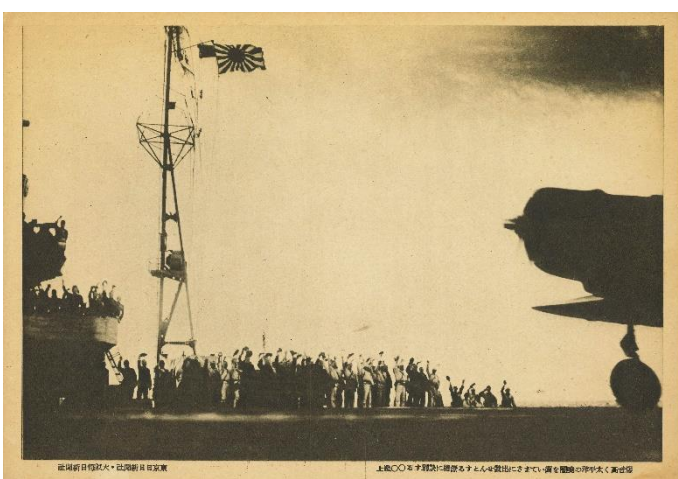
アジア太平洋戦争開戦

- 海軍機動部隊ハワイ真珠湾空襲を開始（午前 3 時 19 分）
- 陸軍第 25 軍マレー東岸に上陸、シンガポールを攻撃
- 陸海軍部隊、香港攻略作戦を開始
- 陸海軍航空部隊、フィリピン空襲を開始

* 一方ヨーロッパ戦線では、この日ヒトラーがモスクワ攻撃の放棄を命令する。

この写真集は、海軍省が提供したもので、8 枚 1 組が 30 銭で東京日日新聞社・大阪毎日新聞社から売り出された。表書きでは「まさに大東亜戦争を飾る国宝的記録写真である」と記している。





大東亞戦果学習絵図（昭和 18 年 12 月 15 日）



国民学校の学習用に児童に配布された。裏面に児童名が記されている。

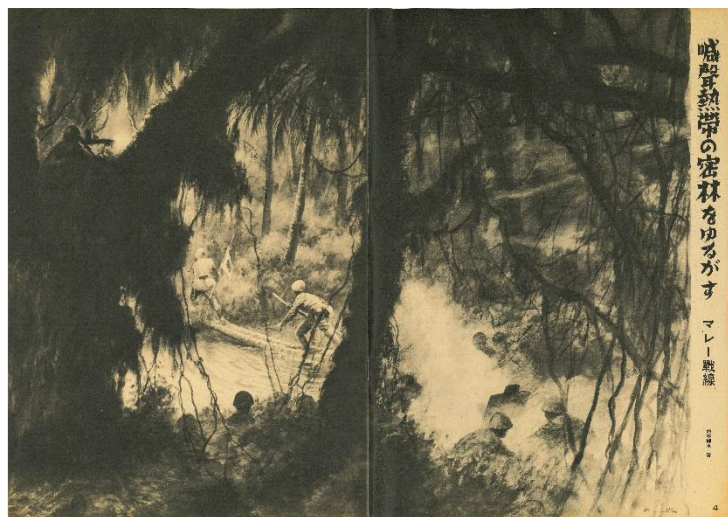
V その他の画家・図案家



菅沼金吾 「航空日九月廿日 空だ翼だ若人だ」



松添健 「暁天を引裂くハワイ真珠湾攻撃」
『写真週報』第 200 号



鈴木御水 「喊声熱帯の密林をゆるがす—マレー戦線—」
『写真週報』第 201 号



杉本金吾
「名古屋汎太平洋平和博覧会美術展」

もんじょ紹介 No.30

発行 2024(令和 6)年 7 月

須坂市文書館

須坂市大字須坂 812 番地 2

(旧上高井郡役所内)

TEL 026-285-9041

FAX 026-285-9175